

6/7

## 大学生と一緒に作る 小さな畑



福島大学の学生17人が、プランターや土を携えて松川第一応急仮設住宅を訪れ、ミニトマトとナスの苗を移植しました。

移植には大勢の住民が協力し、学生と交流しながら手際よく作業。軒下に次々とプランターが据えられました。学生の一人、鈴木健也さんは「迎え入れ、手伝ってもらいうれしい」と笑顔で話していました。

◀参加した住民が植え方のコツを教えます



▲プランターを軽々と運んでいた庄司フヨノさん(飯樋町)「ありがたいよね」



## 「緑のカーテン応援団」からの贈り物

6/7

「NPO法人 緑のカーテン応援団」が、約20人のボランティアと一緒に松川第二応急仮設住宅を訪れ、住宅の屋根からネットを下げ、軒下にゴーヤの苗を植えました。苗は沖縄産で、村社会福祉協議会に提供され、お茶会でも配付されています。

住民も、会話をしながら作業を見守りました。ぐんぐん伸びて涼しいカーテンになるといいですね。



▲全戸の屋根にネットを張ってもらいました

## 6/10 ハチ公のオブジェがやってきた



▲村民の帰村を待つハチ公を、入所者と関係者が囲みました

県内被災地に花を贈って交流している渋谷公園通り商店街が、忠犬ハチ公のオブジェをいいたてホームに贈りました。ハチ公は鉄のワイヤー製で、制作したのはアーティストの鯨雄作さん。花で飾ったり内蔵のライトを灯したりできるものです。入所者に付き添っていた職員の高野光子さん(長泥)は「時が経つほど宝物になりますね」と話していました。

5/31

## 被災市町村の議員代表が一堂に

「東電福島第一原子力発電所事故被災市町村議会連絡協議会」の代議員総会が、飯館中学校の多目的ホールで行われ、13市町村から集まった各議会代表の議員らが、現在の課題について話し合いました。この連絡協議会は、震災の年の8月に組織され、被災に係る補償や賠償、除染の課題等について審議し、国や東京電力に対し要望活動等を行っています。



▲村議会の佐藤議長が今年度の会長を務めます(写真中央)

## にぎわう六魂祭の「福島ふるさと広場」で

6/1

6/2



▲(左から)石原大臣と瀬戸福島市長を迎えた村のブース

福島大学附属小学校の校庭で行われた東北六魂祭の「福島ふるさと広場」に、飯館村のブースが出展しました。「かーちゃんのカ・プロジェクト」の漬物や菓子を中心に、仮設住宅の有志が手作りした小物等も販売され、行列ができるほどの盛況ぶりでした。

また2日には、石原伸晃環境大臣が会場を訪れ、飯館村ブースでも商品を購入して、村民と歓談しました。

6/4

## 赤ちゃんへの贈り物に

村は今年度から、赤ちゃんに木のおもちゃと読み聞かせ用の絵本を贈ることになりました。この事業は「認定NPO法人グッド・トイ委員会 東京おもちゃ美術館」と「一般財団法人 出版文化産業振興財団」の支援を受けて行われるもので、対象は今年4月2日以降に生まれた赤ちゃんです。村はそれぞれと「飯館村の子育て支援に関する協定書」を取り交わすこととなり、東京おもちゃ美術館で調印式を行いました。



▲村長と握手する「東京おもちゃ美術館」多田千尋館長(左)と「出版文化産業振興財団」肥田美代子理事長(右)